

【特集論文】

**課題解決型授業による日本の英語教育の小学校英語からの改善
—次期学習指導要領が狙う「主体的・対話的で深い学び」実現のための提案—**

東野 裕子（日本体育大学）

本稿では、2020年度より第5・6学年が教科化される小学校英語について、小学校学習指導要領（平成29年告示）が求める「主体的・対話的で深い学び」の実現には、課題解決型・プロジェクト型の活動・学習が不可欠であることを議論する。

まず、小学校学習指導要領が説く「課題」解決の内容について触れ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業となるためには、授業内容を「課題解決型・プロジェクト型」にすべきであることが必須となることを説く。

次に、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる課題解決型・プロジェクト型の授業の質を保障するための実践例を、中学年（第3・4学年）の「文字の扱い」と高学年（第5・6学年）の「読むこと」「書くこと」の単元計画、言語活動、並びに学習内容などを具体的に示す。

最後に、提案したこれらの指導・学習方法が各教科等と同様に課題解決型の授業内容となるための改善策を提案する。

キーワード：プロジェクト，文字学習，読むこと・書くこと，課題解決型活動

**Key to Curriculum Revision in English Education at Elementary Schools
—Project- and Task-based Teaching to Implement Proactive,
Interactive and Deep Learning —**

Yuko HIGASHINO (Nippon Sport Science University)

The purpose of this paper is to introduce task- and project-based teaching in English education in Japan, in order to improve the quality of English lessons for communication. It focuses on implementing "Proactive, Interactive and Deep learning." The government mandated Course of Studies encourages teachers to utilize concrete problem-solving or task-completing activities in all subjects, including English. Here, English activities for learning the alphabet in Grades 3 and 4, and for acquiring reading and writing skills in Grades 5 and 6, are presented with their rationales explained.

Key Words: task-based and project-based teaching, learning the alphabet, reading and writing skills, problem-solving and task-completing activities

1. はじめに

2020年度より全面実施される『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省, 2018a；以下、小学校学習指導要領）では、学力の3つの柱として、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びの向かう力・人間性等」を定義し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を謳っている。外国語（英語）教育においては、高学年（第5・6学年）に週2単位時間（1単位時間45分）の外国語の授業が、また、中学年（第3・4学年）には週1単位時間の外国語活動の授業が導入される。また、小中高等学校を通して、従来の4技能から、ヨーロッパの言語運用能力の評価基準であるCEFRに則り、「話すこと」が「発表」と「やり取り」の2つに分かれ、「4技能5領域」となる。

「話すこと」の目標や内容は、「やり取り」と「発表」に分け、それぞれに活動を計画することになる。中学年（第3・4学年）では、「話すこと（発表）」と「話すこと（やり取り）」「聞くこと」の2技能3領域、これに高学年（第5・6学年）では、「読むこと」「書くこと」の2技能が加わり4技能5領域となるのである。

さらに、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』（文部科学省, 2018b, 以下、『解説』）の総説では、学校教育に「他者と協働して課題を解決していくこと」や「情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと」などを期待している。加えて、「各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習）の質を向上させることを主眼とする」（p.5）ことなどが挙げられている。つまり、他者との関わりを大切に、課題解決型の学習を進め、学習の質を向上させることを義務づけたことになる。

2020年度より、小学校英語が早期化（中学年に外国語活動を導入）、教科化（高学年では外国語活動から外国語科）される経緯として、2011年度より高学年（第5・6学年）に必修化された外国語活動の3つの課題（文部科学省, 2018b, p.7）が挙げられており、それらを解決することが、次期

学習指導要領に求められている。

本稿では、課題解決型の活動・学習方法と単元による提案が、以下に議論する3つの課題を解決し、次期学習指導要領が謳う「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋がることを説く。

このために、まず、次期小学校学習指導要領が説く「課題解決」について触れ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業となるには、内容を課題解決型授業にすべきであることを主張する。児童が創造的に考えようとするなどの授業の質を保障するための実践例として、中学年（第3・4学年）の「文字の扱い」と高学年（第5・6学年）の「読むこと」「書くこと」の単元、言語活動、並びに学習方法を例示する。

2. 『解説』が挙げる課題

2011年度から高学年（第5・6学年）に必修化された外国語活動の3つの課題は次の内容である。

課題① 音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない。

課題② 日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある。

課題③ 高学年は、児童の抽象的な思考力の高まる段階であり、より体系的な学習が求められる。

これらの課題を受けて、中学年では、「聞くこと」「話すこと」を中心に導入し、「外国語に慣れ親しみ、動機を高めた上で、高学年からの発達段階に応じて段階的に文字を『読むこと』、『書くこと』を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行う」（文部科学省, 2018b, p.7）こととしている。

3. 小学校学習指導要領で期待されること

本項では、「主体的・対話的で深い学び」、前述の3つの課題に関わる中学年（第3・4学年）の文字学習、高学年（第5・6学年）の「読むこと」「書くこと」に焦点を絞り、学習指導要領の狙いを具象する。

3.1 「主体的・対話的で深い学び」

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、「学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること」（中央教育審議会, 2016, p.49）である。

小学校学習指導要領に示されている外国語活動・外国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善については、「単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること」（文部科学省, 2018a, pp.161-162）と示されている。下線の「五つの領域」は、中学年の外国語活動では、話すことにおける「発表」と「やり取り」と「聞くこと」の「三つの領域」となる。

3つの学びの中の「主体的な学び」とは、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」（中央教育審議会, 2016, pp.49-50）こととされている。外国語活動・外国語科においては、外国語を学ぶことに興味を持ち、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を理解し、学習に見通しを持って取り組み、自分の学習を振り返って次の学習へ繋ぐことである。

「対話的な学び」とは、「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること」「身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくこと」

（中央教育審議会, 2016, p.50）とされている。外国語教育においては、他者とのコミュニケーションの中で、楽しさなどを感じたり、心動かされたり、自分の考えを深めたりすることである。

3つ目の「深い学び」とは、「知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したり」（中央教育審議会, 2016, p.50）することとされている。外国語教育においては、教科等で身に付けた知識などを活用しながら、ことばを使う目的や状況に応じて活動し、必然性のあるコミュニケーションを通して、学習内容を深く理解することである。

以上を受けて、小学校の外国語活動・外国語科の授業において、教師は、児童の身近な、あるいは、興味・関心のある題材を取り上げ、コミュニケーションを図る目的を明確にし、具体的な課題を設定した単元を構成する必要がある。児童がその単元を、見通しを持って活動・学習する過程で必然性を持って、学んだことや英語の音声や語彙、必要な表現を活用しながら自分の考えや情報を伝え合うことができる授業を構築する必要がある。

前述（2.『解説』が挙げる課題）の3つの課題は、「音声から文字への学習」「音と綴り字の関係」「体系的な学習」と文字に関わることと、高学年（第5・6学年）の体系的な学習について挙げられている。このため、関連する中学年（第3・4学年）での文字の扱いと高学年の「読むこと」「書くこと」に関して学習指導要領の内容をみていく。

3.2 小学校学習指導要領（中学年）の文字の扱い

小学校学習指導要領には、中学年（第3・4学年）の外国語活動の目標の「(1) 聞くこと」において、「ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるか分かるようにする」（文部科学省, 2018a, p.173）とされている。また、『解説』（文部科学省, 2018b, p.20）では、「ここでいう「文字」とは、英語の活字体の大文字と小文字のことであり、「読み方」とは、文字の名称を指している」とされ、ここでは、文字の読み方（名称）を聞いて

て、どの活字体を表しているのかを理解することを求めている。また、内容(3)の「ア 聞くこと」においても「(ウ) 文字の発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動」(文部科学省, 2018b: 175) が例示されている。従って、中学年(第3・4学年)においては、アルファベットの大文字、小文字の「読み方(名称)」が発音されるのを聞いて、文字が識別できることが求められている。

3.3 小学校学習指導要領(高学年)の「読むこと」「書くこと」における文字の扱い

小学校学習指導要領には、高学年の「読むこと」の目標に、表1に示す通り、「活字体で文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」「書くこと」では、「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」(文部科学省, 2018a, p.157) が挙げられている。『解説』には、文字の形の違いを識別できるだけでなく、「文字を見て、その名称を発音できること」を求めている(文部科学省, 2018b, p.78)。

表1 外国語科における4技能5領域における目標

4技能5領域		各領域の目標
聞くこと		ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる。 ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
話すこと	やり取り	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を伝え合うことができる。 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 自分の相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
	発表	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと		大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

さらに「読むこと」の目標には、「イ 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」と限定されている。この目標を達成するための例として、『解説』(文部科学省, 2018b) には、「絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別したりするなど、言語外

情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることを示している」(p. 78) とされている。

内容では、「言語活動及び言語の働きに関する事項」の「読むこと」で「(エ) 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本の中から識別する活動」が例示され、「内容理解を促すための絵や写真がふんだんに使用されているということのほか、主題やストーリーがはっきりしているという特徴がある。したがって、「絵本」という例示により、児童に複数の文を読ませる際は、何らかのテーマについて話の展開が分かりやすく書かれているものを読ませるものの必要性を示している。加えて、絵本には、同じ表現が意図的に繰り返し示されているという特徴もある(p.105)」と「絵本」の特徴や扱いが挙げられている。絵本によって、繰り返し音声で慣れ親しんだ語句や表現を識別したり、推測して読んだりすることができることが言及されている

以上の絵本の特性を活用した課題解決型の単元や活動を考えることが求められている。具体的な単元例として、「My Story Book を創ろう」を4.4で示す。

4. 課題解決型の活動・学習

本項では、「主体的・対話的で深い学び」が実現する、課題解決型の活動、学習方法、小学生の発達段階に見合った単元などを紹介する。

4.1 「主体的・対話的で深い学び」が実現される課題解決型の活動・学習

図3が示すように、東野・高島(2007, 2011)では既に、小学生の発達段階や児童の実態に合った活動・学習として課題解決型(プロジェクト型)外国語活動を提案している。これは、単元の最初に児童に課題を与え、あるいは、自ら見つけさせ、それに対するゴール(課題の解決)を児童自身が決め、課題の解決に向けて見通しを持って活動・学習を進めていくことで、自ずと主体的・創造的な活動になることを図式化したものである。児童

自身がゴールを決めることにより、その単元を進めている間、学習意欲を高め、興味が持続することになるのである。

活動・学習の中で、「授業」の目標（めあて）を児童も教員も明確に意識していることが最も重要である。活動・学習の過程では、ペア学習やグループ学習を多用し、お互いの考えを伝え合ったり、教え合ったりする中で、「多様な他者と協働」し、協同の学びが成立することになる。このような方法・内容を進める、おおよそ4～8時間のまとまった時間取りをした単元を「プロジェクト」と呼んでいる（東野・高島, 2007, 2011）。

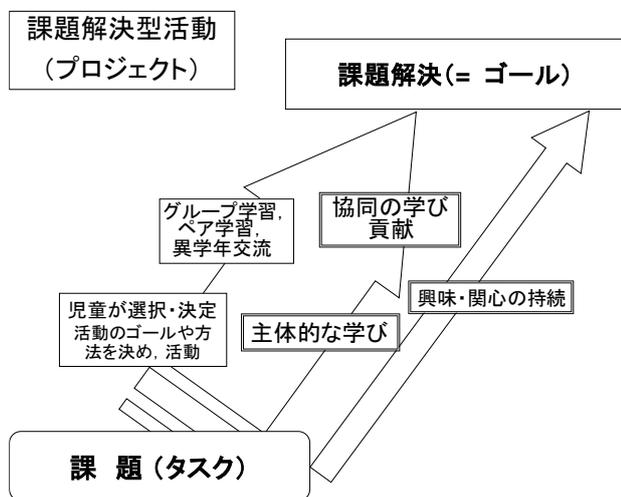


図1 課題解決型の活動・学習の流れ

題材としては、発達段階に見合ったものとして、自己紹介や学校紹介など身近なもの、街にあるアルファベットや買い物など児童の生活と関わるもの、日本文化紹介や絵本の読み聞かせなど自国文化や異文化に関わるものなどが適している。発信相手としては、学級・学年・異学年の児童、保護者、地域の人々、姉妹校の友だちなど多様な他者を設定し、相手意識を持たせ、それぞれの相手に応じた発信を工夫するように指導することになる。

ここで、図3に示した「プロジェクト」と小学校学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」のキーワードを表2に示す。例えば、「プロジェクト」では、最初に「課題を与え」その課題に対して児童が「ゴールを決定」している

ことで、学習目標が明確となり、見通しを持って単元を進めることができる。これは、「コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識して」、「見通しを持って粘り強く取り組む」ことが求められている「主体的な学び」と同義と考えられる。このように、「プロジェクト」型の授業と「主体的・対話的で深い学び」は共通する部分が多く、小学校英語において「プロジェクト」で単元を進めることは、学習指導要領の趣旨に沿っていると言える。

表2 プロジェクトと主体的・対話的で深い学びとの関連

主体的・対話的で深い学びに含まれるキーワード	プロジェクトのプロセスに含まれるキーワード
《主体的な学び》 コミュニケーションの場面・目的・状況を意識する 見通しを持って粘強く取り組む 学ぶことに興味や関心を持つ 自己の学習を振り返って次につなげる	主体的な学び 課題の設定・ゴールの決定 単元として実施・見直し 興味の持続 振り返り
《対話的な学び》 子供同士の共同 教職員や地域の人との対話 他者を尊重、他者の考えを学ぶ 考えや情報を伝え合う 自分の考えを深める	共同の学び ペア・グループ学習 発信相手に応じた発信 異学年交流 多様な他者との交流
《深い学び》 実際のコミュニケーションで運用・活用する 学習内容を深く理解し、学習への動機づけとする	真のコミュニケーション 相手や状況に合わせて対応

4.2 課題解決型の文字学習「アルファベットを使ったことばを見つけよう！」

「3.2 小学校学習指導要領（中学年）の文字の扱い」で取り上げたように、中学年（第3・4学年）では、「大文字と小文字の読み方（名称）」を聞いて、文字を識別できることが目標となっている。本単元では、国語科のローマ字学習と関連付けた単元として構想し、ローマ字学習を第3学年で行うことから、第4学年の1学期に行うように計画した。単元の流れは図2の通りである。

アルファベットを使ったことばを見つけよう！英語？日本語？
(第4学年：全3～4時間)

《単元の目標》

- アルファベットの大文字、小文字を識別し、読み方がわかる。【知識・技能】
- ことばを集めたり、分類した語句を書き写すことができる。【知識・技能】
- 日本語（ローマ字）と英語の違いに気づき、ローマ字や英語に分類することができる。【思考・判断・表現】
- グループで協力して、アルファベットの文字数を数えようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

《単元の流れ》

- ① ローマ字を復習しよう(1時間)
- ② このことば、英語？日本語？(2～3時間)
 - ・ 資料を見て話し合う
 - ・ アルファベットを使ったことばを見つけよう
 - ・ アルファベットを使ったことばを整理しよう
 - ・ 使われている文字の数を数え、コーパスと比べよう

図2 文字学習の単元の目標と単元の流れ

小単元 ①「ローマ字を復習しよう (1 時間)」では、ローマ字との関連で学習を進める。まず、ローマ字を想起し、簡単なことばや固有名詞などを書いてみる。次に、ローマ字表などを使ってローマ字の復習を行う。その後、アルファベットが書かれたワークシート (資料 1) を使って、ローマ字に使われていた文字に○をつけさせる (図 3 参照)。

次のアルファベットの文字うち、ローマ字に使われている文字を○でかこみましょう。いくつあるかな？

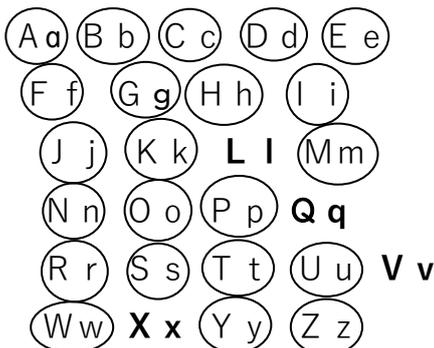


図 3 授業におけるスライド例

この結果から、ローマ字学習により、アルファベット 26 文字中 22 文字は既知であり、ローマ字を書く練習の中で、アルファベットの大文字小文字共に、22 文字は書くことができることを知らせ、自信を持たせる。新たに学習する 4 文字 (L,Q,V,X) は、L はサイズ、Q は質問やトランプのクイーン、V は victory、X は X 線やなど、児童にとって馴染みがあるものが多い。この 4 文字の書き方を学習すれば 26 文字を全て書くことができる。その後、街中にあるアルファベットの文字を使った例をスライドで提示し、街中にあるアルファベットを使ったことばを探し、ワークシート (資料 2) に書き写してくることを家庭学習とする。

小単元 ②「このことば、英語？日本語？ (2～3 時間)」では、児童が家庭学習で探してきたことばを発表させるところから始める。集まったことばを、日本語 (ローマ字) と英語 (外国語)、日本で作られたことばなどに、担任や ALT、辞書の力を借りて分類しワークシートに整理する (資料 3)。次に、英語に分類したことばにそれぞれのアルフ

ベットがいくつ使われているかを数える。数え方は、図 4 のようなワークシート (資料 4) を使い、最初は個人で 5 つ程度のことばを調べ、グループで集計、最終的には学級で集計する (資料 5)。この時、集められた英語が重ならないように、すべて違うことばを扱うようにする。

アルファベットのそれぞれの文字を数えてみよう！

・見つけたアルファベットを使ったことばのうち、英語のことばを 5 つ書きましょう。

Notebook NEWS play coffee

・上に書いた英語ことばに、アルファベットのそれぞれの文字が何回使われているか「正」の文字を使って数えてみましょう。自分の選んだことばが数え終わったら、グループで合計しましょう。

文字 letter	正 Tally	数 N	合計 Tat	文字 letter	正 Tally	数 N	合計 Tat	文字 letter	正 Tally	数 N	合計 Tat
Aa	—	1		Bb	—	2		Cc	—	1	
Dd				Ee	—	4		Ff	—	2	
Gg				Hh				Ii	—		
Jj				Kk	—	1		Ll	—	1	
Mm				Nn	—	2		Oo	—	4	
Pp				Qq				Rr			
Ss	—	1		Tt	—	1		Uu			
Vv				Ww	—	1		Xx			
Yy		1		Zz							

図 4 アルファベットを教えるためのワークシート例

最後に、学級で得られた集計と約一億語のコーパスを持つ BNC (British National Corpus) (図 5) と比較し、自分たちの集計との類似点や相違点を出させるが、通常、e と a が最頻値になることが興味深い。なぜ、e や a,t が多いのかなどを考えさせ発表させる。

4 時間単元で実施できる場合には、集めたアルファベットを使ったことばで、アルファベット表やアルファベットカルタなどにまとめ、成果物として残すことができる (詳細は、東野・高島, 2011, pp.102-105; 高島, 2014, pp.121-126 参照)。

アルファベット使用頻度 (1 億語)

アルファベット	token		アルファベット	token	
	順位	語数		順位	語数
e	1	54754207	m	14	10918592
t	2	40905698	f	15	9902648
a	3	35435557	p	16	9047159
o	4	33663963	g	17	8749224
i	5	32078709	w	18	8580888
n	6	31134803	y	19	8212614
s	7	28570287	b	20	6909180
r	8	27117060	v	21	4606741
h	9	23248075	k	22	3110831
l	10	18212237	x	23	903949
d	11	17020904	j	24	728202
c	12	13724608	q	25	472199
u	13	12359835	z	26	263178

図 5 BNC による文字の頻度分析

4.3 本単元と課題解決型活動や学習指導要領との関連

本単元が、表1の示す小学校学習指導要領の目標や表2の示す課題解決型活動「プロジェクト」や「主体的・対話的で深い学び」と関連していることをまとめる。

① 他教科で学習したこと（既知の知識・技能）の活用

国語科のローマ字学習で、大文字、小文字が認識でき書けるという技能を活用し、アルファベット26文字中、22文字を既に知っていることを意識させ学習をスタートさせる。このことで、大文字小文字の読み方（名称）を学習することに集中できる。共通しない4文字（Ll, Qq, Vv, Xx）も児童には日常生活で既知であることから、外国語活動の目標である「文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるか分かるようにする」を達成することができる。

② 身近で興味のある題材

「街中のアルファベットを使ったことばを探す」という、児童の生活と密着した活動をさせたことで、児童は興味を持って主体的に活動できる。

③ 適切な課題を設定

「アルファベットを使ったことばを見つける」という課題を設定したことで、活動が明確となり、見通しを持って活動できる。

④ 他者との関わる場面の設定

集めてきたことばを日本語（ローマ字）と外国語（英語）などに分類する際や、アルファベットを数える際の友だちとの話し合いから協同の学びを体験し、担任やALTとの対話から、日本語（ローマ字）と英語の違いや表記に気づくことができる。

⑤ 言語使用を目論む必然性のある練習

アルファベットをグループや学級で集計する中で、「a（エイ）が5つ、b（ビー）が3つ。。。」などと言ったり聞いたりして、その都度文字欄に数を書き込むことで、必然的にアルファベットの文字の読み方（名称）を練習することができる。

以上の5点は、いずれもが、3.1で解説した「主体的・対話的で深い学び」と関連していることがわかる。この単元を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現しているものと考えられる。

4.4 課題解決型の「読むこと」「書くこと」の単元「My Story Book を創ろう」

3.3で取り上げた高学年（第5・6学年）における「読むこと」「書くこと」の目標を達成し、また、絵本を活用する単元を紹介する（図6）。

My Story Book を創ろう(第6学年: 全8時間)	
<単元の目標>	
○ 既習の表現や将来の夢を表す表現を使って自分の絵本を作り、発表することを通して、英語表現がわかる。	【知識・技能】
○ 基本的な表現を使って自分のMy Story Bookを友達に紹介したり、友達のMy Story Bookの発表を聞いたりする。	【知識・技能】
○ 絵本の作成や発表を通して自分自身や友だちの良いところに気づいたり、認めたりできる。	【思考・判断・表現】
○ 進んで自分を表す絵本My Story Bookを創り、発表しようとする。	【主体的に学習に取り組む態度】
<単元の流れ>	
① I LIKE ME!のお話を読もう	(2時間)
② 将来の夢について考えよう	(1時間)
③ My Story Book を創ろう	(3時間)
④ My Story Bookの発表会しよう	(2時間)

図6 「読むこと」「書くこと」における絵本の活用した単元の目標と単元構想

本単元は、自分の好きなお話や自分らしさを描いた *I LIKE ME!* の絵本を題材に、小学校で自分ができるようになったことや自分の好きなお話、自分らしさなど、自己を振り返り、また将来についても考え絵本に表し、発表するという単元である。卒業を前にした第6学年3学期の単元であるため、それまでに学習した英語の語彙や表現などから取捨選択し絵本を創ることになる。

小単元①「*I LIKE ME!*のお話を読もう(2時間)」では、最初に読み聞かせをしてもらい、その後、図2に挙げた「読むこと」の目標を達成するため、「絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別したりする」とあるように、「I like~」「I have ~.」「I get up ~」「I eat ~.」「I read ~.」など、今まで音声で十分慣れ親しんだ表現を、絵本を使って読んでいく。

小単元②「将来の夢について考えよう(2時間)」

では、今までの自分を振り返り、今後の自分の姿や夢、大人になった時の職業を考え、絵本のストーリーを考える。ここでは、「自らの学習活動を振り返って次の学習につなげること」となっており、「主体的な学び」となっている。

小単元 ③「My Story Book を創ろう(3時間)」では、自分で考えたストーリーに合わせて、英語表現を選ぶ際に、既知の表現を活用する点で「主体的な学び」を、絵本を作成する際には、自分の絵本に「自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く」(表1参照)ことをして仕上げられており、3.3 で取り上げた「書くこと」の目標を達成していることになる。また、出来上がった絵本を使って発表練習をする際に、グループで教え合うことで、他者とのかかわりの中で「対話的な学び」を実現していることになる。

小単元 ④「My Story Book の発表会をしよう(2時間)」では、発表することで「話すこと(発表)」、友達からの質問に答えることで「話すこと(やり取り)」の両方ができることになり、また、友達の発表を聞くことで、表1の示す「話すこと」「聞くこと」両方の目標を達成することができる。また、同時に実際のコミュニケーションの場で、今までに学んだことを運用することができ、「深い学び」を実現することができる。

本単元では、4技能5領域の技能すべてを総合的・体系的に活用し、統合的な言語使用が可能となる。

このように、高学年(第5・6学年)においても、課題解決型の単元を進めることで、小学校学習指導要領が示す目標を達成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現することとなる。

5. まとめ

ここまで提案してきた課題解決型の活動・学習方法と2つの単元例が、小学校学習指導要領に挙げられた3つの課題の解決となっているかについて述べる。

中学年(第3・4学年)では、アルファベット

の文字の読み方(名称)が発音されたのを聞き、文字を識別できるようになる。高学年(第5・6学年)では、絵本を活用して、音声で慣れ親しんだ表現を推測しながら読んだり、絵本をつくる際に、音声で発表する表現を書いたりすることで、音声と文字(表記)が結びつき、中学校以降の外国語教育へと円滑に接続されると考えられる。

中学年の「アルファベットを使ったことばを見つける」や高学年(第5・6学年)では、「絵本を読む、創る」などの活動を通して音と綴りの取り上げる場が多くあり、中学年(第3・4学年)では、臆気ながら分かるといった状況である。段階的に様々な手立てを打つことで、高学年(第5・6学年)では、理解を深めることが可能となる。

また、中学年(第3・4学年)で課題解決的な活動を重ねることで、「音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現」が、高学年(第5・6学年)では、紹介した単元のように「読むこと」「書くこと」を加えて4技能5領域にわたって活動することで、総合的・体系的に学習させることが可能となる。

ただ、これらの課題解決型・プロジェクト型の授業を行ったことで「主体的・対話的で深い学び」となったことの検証が必要となる。調査デザイン、方法など、質的かつ量的にデータをいつ、どのように収集し、分析するのかを同時に考慮しておかなくてはならない。

総括するならば、授業を課題解決的な単元として進めることで、学習指導要領外国語活動・外国語科の目標を達成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが可能となるのである。高島(2020, 印刷中)でも明らかとなるが、小学校英語に留まらず、日本の英語教育の方向性は授業内容を課題解決型・プロジェクト型にし、児童・生徒が「考えて表現する」機会を保障することである。漸く、教室での授業内容と教室外のコミュニケーションが繋がる英語教育となる。

注

1) 文字と綴りの関係理解させる手立てとして、文

字が発音できる, 語(句)が発音できる, 文が読めると段階を追ってする学習ことができる。詳しくは, 東野・高島(2014)を参照。

引用文献

Carlson, L.V. (1988). *I LIKE ME!* New York: Penguin Books.

中央教育審議会(2016)『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領などの改善及び必要な方策などについて(答申)』http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf, 2019年8月1日閲覧。

東野裕子・高島英幸(2007)『プロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店。

東野裕子・高島英幸(2011)『プロジェクト型外国語活動の展開 — 児童が主体となるプロジェクト型授業の実践と評価 —』高陵社書店。

東野裕子・高島英幸(2014)「小学校外国語活動・英語教育における課題解決型授業の提案 — 第3学年から第6学年の「読むこと」の kurikulumを中心に —」日本児童英教育学会 秋季研究大会発表資料。

文部科学省(2018a)『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社。

文部科学省(2018b)『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編』開隆堂書店。

高島英幸 編著(2020, 印刷中)『タスク・プロジェクトによる英語教育(仮題)』大修館書店。

《資料 1》

アルファベット26文字

年 組 _____

☆ アルファベットの文字 (letter) のうち、ローマ字にも使われている文字を○でかこみましょう。共通の文字はいくつあるのかな？

A a B b C c D d E e

F f G g H h I i

J j K k L l M m

N n O o P p Q q

R r S s T t U u V v

W w X x Y y Z z

アルファベットを使ったことばを見つけよう ①

アルファベットを使ったことばを集めよう！

年 組

見つけたことば	場所・場面

アルファベットを使ったことばを見つけよう ②

ことばを整理しよう！

年 組

◎ 外国語（英語）

◎ ローマ字（固有名詞を含む）

◎ 日本で作られたことば

アルファベットを使ったことばを見つけよう ③

アルファベットを数えてみよう!

年 組

☆ それぞれの文字がどのくらい使われているのか数えましょう。

・ 見つけたアルファベットを使ったことばを5つ書きましょう。

--

・ 見つけたことばの中に、それぞれの文字が何回つかわれているか、下の表のアルファベットの横に正の字を書いて数えましょう。

アルファベット	正の字	数									
A(a)			B(b)			C(c)			D(d)		
E(e)			F(f)			G(g)			H(h)		
I(i)			J(j)			K(k)			L(l)		
M(m)			N(n)			O(o)			P(p)		
Q(q)			R(r)			S(s)			T(t)		
U(u)			V(v)			W(w)			X(x)		
Y(y)			Z(z)								

☆ 多いものから5つ書いてみましょう。

順位	文字	出てきた数	順位	文字	でてきた数
1			4		
2			5		
3					

アルファベットを使ったことばを見つけよう ④

アルファベットの数を集計しよう！

年 組 _____

個人で集計した後、グループ・学級の合計をしましょう。

文字	正の字	数	合計	文字	正の字	数	合計	文字	正の字	数	合計
A (a)				B (b)				C (c)			
D (d)				E (e)				F (f)			
G (g)				H (h)				I (i)			
J (j)				K (k)				L (l)			
M (m)				N (n)				O (o)			
P (p)				Q (q)				R (r)			
S (s)				T (t)				U (u)			
V (v)				W (w)				X (x)			
Y (y)				Z (z)							

☆ 英語のことばに使われている文字のうち、多いほうから5つ書きましょう。

グループ集計で 多かった文字		数	クラス集計で 多かった文字		数
1位			1位		
2位			2位		
3位			3位		
4位			4位		
5位			5位		

☆ 今日の活動の振り返りを書きましょう。
